

「見えなくなったクロ」を読んで

五年生

親 不思議なお話だね。このお話の中で、面白いと思ったのはどこかな？

⊕ 一郎にそっくりな転校生が来たのにだれもそのことに気が付かない。
親 宿題の作文、算数のテストのひみつ、リヤカーおしのことで、一郎と犬丸君のやったことをくらべてみよう。

⊕ 作文は、二人ともざっしを丸写ししていた。一郎は算数のテストでは、問題を暗記していたことを内緒にしていたが、犬丸君はみんなに教えてあげた。リヤカーおしでは一郎は、とちゅうでおすのをやめたけど、犬丸君は坂の上までおしてあげた。

親 けつきよく犬丸君はだれだったのかな？

⊕ クロだと思う。クロは犬丸君になって、一郎君の悪いところを直させてあげようと思って人間に生まれ変わったのかなあと思う。ちよつとむずかしいけど面白いおはなしだった。

「見えなくなったクロ」を読んで

五年生

【子】

ぼくはこの本を読んで、人のまちがっている所を気付かせることが、大切だと思いました。

理由は、一郎のした、雑誌の文を作文にまる写し、テストの問題集を暗記してテストにいどむ、おばあさんのリヤカーを利用して、荷物を運びながら家の前についたら勝手にさようならをする、この三つは、自分が得するための行動であって、クロはそれを気付かせたくて、犬丸という人間に化けて、一郎だけが得したことを、正しくさせて、もうやらないようにさせたかったんだと思います。

だから、ひとのまちがっている所を、気付かせることが、大切だと思いました。

【親】

子どもに、なぜクロは、こんな事をしたのか、クロは一郎のことをどう思っていると思うか尋ねました。

最初は正義感からだと思っていましたが、クロが最後にしつぽを振っている様子から、一郎のことが好きだと思っているクロが正しい方向へ導こうとしていると思ったようです。

注意を受けたり、とがめられると自分の感情では「嫌だな」と感じますが、相手の立場になると視点が変わり、意味が変わります。日々、お友達や先生、家族とすごす中でも、自分だけの思いだけでなく、相手の気持ちに寄り添える考えや行動を親子共々取れるようにしたいと考え共有することができました。

【子】

私はこの本を読んで、自分は親友だと思っけていても、相手は自分のことを親友だと思っけているのかのふくざつな友情の物語だと思っけてました。そして、私は親友だと思える関係は、うそを言わない悪いことははつきり言い合える関係だと思っけてます。

けれども人によつて親友だと思える関係はちがうと思っけてました。

作者は、この物語を書っけて読者に相手の立場を考へて話すのが大切だと伝へたいのだと思っけてました。

【父】

「親友とは何か？」「そもそも自分には親友と呼べる存在がっているのか？」と自分に問っけてける状況になりました。「親友」とは、お互いの事、良い事も悪い事も理解し、尊重し合える存在と定義出来るのではないでしようか。これまでの50年の人生で、現在にながっけているそんな友人が存在しているだらうか。また、そもそも仮に存在したとしてその人物は私の事もそんな存在と認めてくれるだらうか。と考へてみると、候補に浮かんてくる数名の顔も消えていつてしまうような心もとなさです。過去・現在・そして将来にわたつて「親友」に出会えたかどうかは結局人生を終える時に気づかされる事なのかもしれません。

ただ「親友」と出会えていなかったとしても人生の価値が下がると思っけてません。

【父】

このお話を読んでどんなことを考へた？

【子】

シア・カーンがわるいやつと思つた。

【父】

なんでシア・カーンが悪いやつだと思つたの？

【子】

モーグリをさらおうとしたから。

【父】

なんでシア・カーンはモーグリをさらおうとしたんだらうね。

【子】

モーグリのことをきらいだから。

【父】

シア・カーンはモーグリがきらいだったの？それとも人間がきらいだったの？

【子】

人間がきらい。

【父】

じゃあなんで、シア・カーンは人間がきらいなんだと思っけて？

【子】

人間が森をこわすから。

【父】

モーグリは、人間の街へもどつてこの後幸せに暮らしたかな？

【子】

幸せにくらせたと思っけてう。

【父】

モーグリは幸せになつたと思っけてうんだね。じゃあ、森のみんな（シア・カーンやバギーラ）は幸せに暮らせたかな？

【子】

幸せだけど人間が森をこわさなかつたらもつと幸せになる。

【父】

モーグリも森のみんなも森を大切にしたら幸せになれるね。じゃあ、森や自然を守つていくためにあなたにできることはあるかな？

【子】

リサイクルを続けること。

【父】

うん。そうだね。リサイクルを続けて森の自然を守らう！！

「カンニング名探偵シャーロックⅡホームズ」を読んで

五年生

【親】読み終わってどうだった？

【子】犯人を当てるのがおもしろかった。

【親】読んでいる間で犯人は分かっていたかな？

【子】理由は分からなかったけどだれが犯人かは分かっていたよ。

【親】そうか。すごいね。じゃあ、理由が分かかった後、どう思った？

【子】なぜそんなすごい理ができるのかなと思った。

【親】そうだね。ホームズはそこにある事をよく観察して、考える力があるんだよね。

【子】ホームズのすごい理でカンニングしたのを当てられたギルクリストがふかく反せいしていた。

【親】誰でも失敗や間違った事をしてしまう事はある。その時にちゃんと間違いや失敗を素直に認めて反省する姿勢が大事なんだよ。

【子】ぼくも失敗や間違った事をしたときにす直に反省するよ。

【親】その気持ちをずっと持ち続けてね。

【親】ホームズは推理だけではなく大事な事を教えてくれたね。また読みたい？

【子】ちがう本も読んでみたい。

「ジャングル・ブック」を読んで

五年生

【子】

わたしは「ジャングル・ブック」を読んでびっくりした所が二つあります。一つ目は、モーグリが赤ちゃんの時に川に流されたのに、岸辺にいたのがびっくりしました。二つ目は、モーグリがバギーラをみてもこわがらずに笑っていることがとてもびっくりしました。わたしだったら、とてもおびえて泣くと思います。動物と人がいっしょにくらすのは、なんだか不思議な気もちだけどみんなが協力していいお話だと思います。

【親】

この本を読んで、実際に現実でも動物に育てられた人間がいる事を知りました。やはり産まれ育った環境は大きいと思いました。ある程度は時間をかけたら新しい生活に慣れるようですが、それがその子にとって幸せなのかは難しいなと思いました。

普段から子供に「あなたの為よ」や「こっちの方が正しい」と、親の考えを押し付けている事が多々あると反省しました。

いつか子供が自立して、親から離れて行く時はバギーラやおおかみの様に幸せと、成長を願いながら笑顔で送り出したいなと思いました。

「クラスメイト・森本えみちゃん」を読んで

五年生

(子)

私は、「クラスメイト・森本えみちゃん」を選んで読みました。この物語は、主人公のわたしと親友のえみちゃんとの先生からもらったかいこのトラブル。

私がこの物語で心に残ったことは、主人公のわたしが親友のえみちゃんのことをたくさん考えたことです。

なぜかというところ、最初はけがをしたわたしに、かいこをとどけてくれてうれしいと思っていたけど、なぜえみちゃんよりも小さくて細いかいこだったんだろう、ずるいと考えていました。だけど、主人公のわたしは、もしかしたらえみちゃんだって大きいのがほしかったんじゃないか、もしかしたら組み合わせを必死に考えたんじゃないかと考え、やつぱりえみちゃんがすきだな、親友だな、と考えを変えたのがすごいなと思いました。もし私なら、そう思うことはできないかもしれないからです。私も、こんな主人公のわたしのように思えるようになりたいです。

(親)

この物語は、一見とても重い内容なのか、と思いきや、主人公がとても物事をプラスに考えていく描写がおもしろく、あっという間に読み終えてしまいました。

娘にも、友達に対して思いやりのある子でいてほしいな、と思います。

「ジャングル・ブック」を読んで

五年生

私は、本を読むのが好きです。そこでジャングル・ブックを手にした時に表紙を見て、ジャングルのどんな話だろう。というワクワクした気持ちになりました。そこで絶対この本にすると心に決め、この本を選びました。

「ジャングル・ブック」には、モーグリという少年が出てきます。モーグリはジャングルで育ったため、人間の村に帰ることをきよひしたが、ジャングルがきけんなため、人間の村へ帰る話です。

この本で特に気になった場面は、モーグリの仲間であるバルーがジャングル最強のシア・カーンにおそわれてしまう場面です。

このとき、バルーとモーグリはけんかをしていました。ですがモーグリはバルーのことを思い、シア・カーンの苦手な火をシア・カーンに近づけ、シア・カーンをおいはらいました。火は雷が落ち、木の一部がもえているのを発見したからです。そこで私は、どれだけ仲が悪くても、いざというときは助けあうことができるというホカホカ、心があたたまったような気持ちになりました。

この本を読み終わって私は、仲間をおもうことが大切だと思いました。これからはもっと、相手のことをおもって行動していきたいです。

